

「自己実現に向けて『自分を語る』道徳学習」

～主体的に考える学習を目指して～

熊本県立荒尾支援学校 高等部一般学級

特別支援学校における高等部在籍者の増加と、軽度知的障がいのある生徒増への対応は様々な面で喫緊の課題である。本校もその例に漏れず、知的な遅れに比べて（社会への）適応行動の遅れが顕著な生徒や、これまでの教育歴の中で、いじめ等の様々な困難を経験したことにより心身の豊かな発達に影響が大きい生徒等がおり、軽度知的障がい生徒を含む学習集団への十分な教育保障が重要である。

従前より荒尾・玉名は人権教育が充実してきた。教職員向け人権教育研修の機会も充実しており、その推進体制も厚い。このような背景をもつ本校高等部において、県内の知的障がい特別支援学校に先駆け、週時間割に道徳を位置づけ4年が経過した。

本稿では本校高等部における道徳の考え方や授業づくりについて紹介する。

1 道徳授業の概要（平成28年度高等部一般学級第2学年）

（1）生徒の様子と道徳授業の中心課題

① 集団としての実態把握（2学年25人）

- ア 消極的・不適切な発言が多く、また作文や意見発表での不安な様子が見られた。
- イ 地元の中学校から進学した生徒の多くが過去にいじめ等の被差別体験があった。また、いじめを受けた理由を問うと「自分に障がいがあるから」という認識があり、いじめや差別を「差別する側の問題」として捉えていない現状があった。道徳授業ではこのような認識を払拭し、いじめや差別の人権学習と併行して実施した。

（2）集団の学習目標

- ① 自己実現に向けて、伝えたいことや喜び・つらいこと等発表する機会を増やし、仲間が受け止め共に励まし合って生きる力を育てる。
- ② 誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。
- ③ 母校を誇りに思う発表を目指す。

（3）指導計画

「道徳」の授業は、月曜日5限目に位置づけ年間25時間程度実施した。下の5つのテーマに分けて取り組み①～④までは全学年合同で⑤は学年毎に取り組んだ。

- ① たいせつなひと※1・・・曲の創られた経緯を理解し仲間意識を育てる。
※1 平成20年度総合的な学習の時間に生徒が合同で作詞した楽曲で、今も大切に歌い継いでいる。
- ② 心のきずなを深める・・・いじめを許さない学校を目指し自他の人権を大切にする意識を育てる。
- ③ 今を生きる・・・自分のくらしや地域の人々の生き方を見つめる機会とする。
- ④ 部落問題学習・・・懸命に生きている人の考えや差別をなくす生き方に学ぶ。
- ⑤ 自分を語る・・・自己実現に向けて、仲間とともに励まし合って生きる力を育てる。

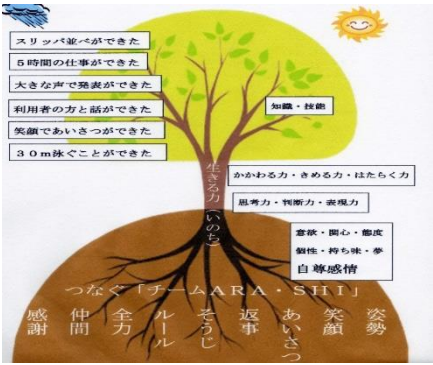
2 「自分を語る」の取組

（1）題材のねらい

生徒たちは友人関係、家族関係、自分の障がい、学習、進路などの学校生活や家庭生活で様々な悩みを持っている。今回は道徳学習の集大成として、自己実現に向けて夢、生い立ち、くらし、生き方を語ることで心を解放し自尊心を高める機会とする。私たちがい

ろいろな困難にあっても成長していく生き方を通して、仲間と共に生きる喜びを育てる。

(2) 指導計画

	学習内容	時数	指導上の留意点・教師の支援
導入	 <p>先輩の「自分を語る」場面をDVDで視聴する。ARA・SHIの木を用いて、自尊感情が高まると意欲・態度も高まることを学んだ。</p>	1	視聴しながら、応援メッセージを主体的に考えるために「常に肯定的にとらえ、励まし、認める。自分のくらしと重ねる」ように指導する。
準備	発表原稿作成 家庭の協力を得て「夢、進路、くらし、生い立ち、行事、いじめ、障がい」等をテーマにして3分程度の発表とした。	2	家庭との連携を図るため、「道德通信」を出し、「自分を語る」意義を伝え、発表原稿の協力を得た。ICT(パワーポイント)を活用して視覚的な支援をした。
発表	1時間に3人が発表し、1人の発表後には、3人の生徒から応援メッセージを伝えた。最後に応援メッセージ記入をした。	8	自分で発表が難しい生徒には教師が支援した。ビデオカメラで発表を記録した。応援メッセージは発表者に手渡し読んでもらった。
総括	発表を一人1分程度にまとめたDVDを視聴し、ワークシートに自己評価をした。教師が全体のまとめをした。	1	DVDを視聴した後、ワークシート記入を支援した。5つのまとめを具体例を出して、分かりやすく説明した。

(3) 生徒の発表内容 (一部)

ARA・SHIだいすき	にがてを克服して、生活をたのしむ
いじめを経験して心友ができたこと	過去を見つめ未来を見据え今できること
自分で考え、自分で動く	生徒会役員としての1年を振り返って
新たな興味の発見	優しい心をもった大人になるために
ぼくの家族	僕は自分のいじめに関して話します。
子どもから大人になること	くらしを見つめ、前に向かって

(4) 考察

「自分を語る」は、生徒たち自らの体験をもとに、主体的に学ぶ授業となった。発表はくらし、生い立ち、家族、夢、いじめ、仲間など多岐にわたり、内容は予想以上に深いものとなった。なかでも、被差別体験や生い立ち等のつらいことを発表する生徒は仲間を信じ、勇気ある発表ができた。学年当初からの道德学習により生徒たちの中で着実に解放する力が育ち、今回の学習に繋がっていった。3人の生徒の感想を紹介する。

- ・最初は「自分を語る」がすごくいやだったけど、今回、発表したことで、自分の事、思ったことを言うのがとても大切だと思った。
- ・こんな事を発表する経験ができて心がホッとしましたが、最も緊張しました。
- ・自分がふだん言えない事を言え、みんなに伝えられた。

3 おわりに (道德学習全体をとおして)

主体的に考える学習を目指し、テーマ設定や体験的な学習(「今を生きる」、「自分を語る」等)を導入してアクティブなものになった。また、家庭や地域の人の参加や協力を得て、多様な考え方に触れ、考えを深め、表現する力を育むことができた。